



明治四十四年十一月二十三日印刷
明治四十四年十一月二十五日發行
編纂兼發行人
長野縣西筑摩郡福嶋町四〇四番地
定價三錢

安井正夫
免澤忠雄
全縣全市
印刷所 交文社
發行所 蘆澤書店
長野縣西筑摩郡福嶋町二八九番地

○本誌目次
○謹告
○學術 木材工藝、行道樹に就て
○技萃 林業年中行事
○文苑 森林看守の奮闘的生活、駒ヶ岳登山記、小品、和歌
○彙報 學校、寄宿舎、リ、運動會
○附錄 修學旅行日誌

謹告

肅啓近時森林教育の稱世人に認められたる
と同時に林業に關する印刷物の普及とによ
りて地方人士の森林に關する知識は著しく
向上進歩しつゝあるも尙事業實行に關して
は遅々として振はず爲めに公有林野の整理
並に之が經營の如きは當局者が指導監督に
怠りなく且種々なる具體的方法によりて奨
勵に努めらるゝのみならず一面林業は農業
に比し數倍の精神的勞力を要する次第なれ
ば政府は今後監督の必要上諸外邦の例に倣
ひ法律其他何等かの形式によりて相當面積
を有する林野の經營には絶對に管理經營者
を任用すべき要求あるの期は數年を出でざ
る事と被存候現に各府縣公有林野の經營に
は村費を以て林業技術者を招聘しつゝある
の類例は多々存するに拘らず縣下に於ては
目今殆んど皆無の状態にて郡に於てすら林
業技術者の任用せらるゝ僅かに八なるが如
き奇觀は八割五分有餘の森林面積を有する
本縣として慚愧に堪へざる次第に就き一村
若くは數ヶ村聯合して森林技術者を備聘す

るか或は其準備として今より其町村出身優
良の青年に學資の補給をなし森林教育の門
に入らしめ卒業後は義務として其町村役場
に專屬するか或は小學校教職を兼任せしむ
る等然るべき方法によりて有利に公私有林
野を利用して町村基本財産の蓄積其他に勉
められ度既に當校にも町村或は有力者の庇
護によりて業を卒へたる者數名有之又引証
恰當ならざるも山梨縣中巨摩郡豊村にては
學力優等なる青年を選抜し村費を以て同村
小學校長養成の見込を以て年額百八十圓を
給して高等師範學校に熟練なる村醫師を得
るが爲め年額二百圓を投じて醫科大學に蠶
業教師養成の爲め年額百八十圓を以て西々
原蠶業講習所に何れも入學せしめ人材を養
ふて村百年の大計を樹つるの主旨は以て範
となすに足るべき義と存候時恰も次年度豫
算編成の期も差迫居候折柄ならば各町村有
力者各位は森林技術者の備聘又は養成等適
宜の方策を講せられ度右は數年前得貴意候
得共茲に本誌面より特に及御協議候也

學術

木材工藝

江波多

旅行に際し林業試驗場にて見聞したる
木材工藝に關する一二の斷片を録す
偽塗板 貴重樹種の減少と共に木理の美
麗なる材種を其厚さの儘に使用する事の甚
だ不經濟なると同時に重量重く反振を生じ
易き不利あるを以て木理の美なる者を薄板
に削ぎ他の重量輕き板に膠付けとし仕上げ
を施して所謂貼付材として廣く柱長押天井
板其他一般家具裝飾品に使用せられつゝあ
るは夙に吾人の知る所なり此趨勢を以てす
れば従來神社佛閣に於ける珍品の一として
賞揚されたる樺或は樟の一枚板の天井の如
きは普通民家の天井板或は戸の類に續々現
はるゝに至るべし現に六尺四方餘の貼木材
は仕上げに至る迄凡て機械力によりて繼日
なく且最も安價に最も容易に製作せらるゝ
に至れり而して吾人の最も貴重なる塗板の
如きも又容易に人工によりて製作せらるゝ
に至れり其方法の如き最も簡單なる者にし
て空を現出せしめんと欲する板を熱湯にて
煮るか或は蒸箱に入れて蒸汽を通じ取出し

て直ちに本を植付けんとする位置に鐵棒様の者に強く壓せば蒸熱されたる板は容易に其局部突出す而して望む所の數だけ板面に突起を作りて後之を幾枚もの薄板となし貼木材として仕上げを施せば所謂人工偽木板を得べし

模擬象嵌 本象嵌に就きては従來各地に製作せられたるも近時東京本所五柳町なる巴商會にて製作せらるる者の如き美術品として世人の觀賞措かざる所なり即ち衝立額面屏風其他視箱等に濃淡色彩等一見木象嵌と見るを得ざる程度に精巧なる製品を販賣せり模擬象嵌とは所要の板に過滿酸加里一之水一六の割合に混和し四五回塗抹し乾燥せしめ次に望む所の繪模様を羊皮紙に切り抜き之を前記の板に張り付け別り過酸化水素一五硫酸二の割合に混合せる溶液を切り抜きたる繪模様の箇所に塗り付け然る後に之を洗ひ落せば所要の模擬象嵌を得べし仕上げにはウニス塗抹す之に使用すべき樹種は枋の如き材色白くして材質一様な種類を宜しとす

アンモニヤ着色法 沒食子酸の水に溶解し得る程度の水溶液を板に塗り付け然る後「アンモニヤ」瓦斯にて蒸す時は美麗にして光澤ある着色板を得又單寧を含有せる樹種の板は直ちに之を「アンモニヤ」瓦斯にて蒸す時は黒紫色の光澤ある者を得べし決して褪せせず上よりワニスを塗り仕上げを施す

硫酸消蝕法 此方法は一般行はるる方法にして即ち所要の板に蠟にて繪畫或は圖案を畫き磁器製の平たき皿に入れ硫酸にて數時間浸蝕せしむれば雅味ある裝飾材を得べし浮彫 澳國の木彫に關し家的族工業として盛に製作せられ産額多大なる事は嘗て本誌

に記述せし所なり而して簡易なる浮彫にきては現今凡て機械力を應用し少しも技術者の手工に俟たずして容易に種々なる花模様唐草其他の者を彫刻し迅速にして而して精巧なる者を製作し得らるる云ふ

行道樹につき

小松吉次郎

(左記の記事は「アメリカ」の森林雜誌に掲げしものを拙譯せり)

近時公園管理者は新しき問題に遭遇せり即從前は粗末に取扱はれ且一般に重要視せざりし行道樹が著しく彼等の注意を惹き起すに至りしこと之れなり市民に公園樹よりも更に深く念頭に止め研究するは行道樹か日常直接幸福を興ふるに益其繁茂を希望すること切なりされば行道樹も亦公園樹と等しく或管理者により監視すること最必要にして誠實なる主宰者の判断に委ね害虫及菌類の絶滅を主とし秩序的に正當の時期に驅除及豫防行為を施すは行道樹を保全する唯一の方法にして其主宰者は一森林教育を受けし者或は樹木培養に關する智識を公園に於て多年経験を積みし者一専門の森林官を置くべく此管理者は植栽に關すること驅除劑を注ぐこと剪枝培養の手入れに關する諸種の驅除液及殺菌劑を研究し最良の器具を整頓し行道樹保護法を實行し進ては地圖上に行道樹を標示し廣く他市を視察して種々の問題を知り適樹適地を定め移植剪枝の方法を市民に知得せしむる爲に講話を行ひ或は印刷物を公になす而して新樹種を増すよりも寧ろ既に存するものに周到なる撫育を加ふること第一必要なりとす次に葉枝を食害する昆虫は殺虫液を灌漑驅除するに肝要なる事項にして行道樹は公園樹より一

層多く害を被り易き條件を備ふるものにて其の街路に繁る樹は害虫驅除の方法十分ならざれば枝葉の食害を免るること殆ど稀なり或は「クアルミ」シナノキも亦然りとす故に驅除劑の散布は昆虫が未だ十分發育せず食害の甚しからざる時期に於て施すべし勿論其効果は藥液の完否によること明かなれど害虫の状態及散布の普く行き渡ることに必要なりとす

晩夏より初秋は剪枝の時期にして攀ち上る樹木及移植すべき枝に必要な準備を施すべく剪枝は滑かに切り傷口に「タール」を塗り及び再び剪枝の必要ならしめんことを欲する所に専ら「タール」を用ゆ而して損傷及空洞は馬に咬まれし個所或は不注意なる切斷より漸次生ずるものにて多くは空洞に「セメント」を充すを一般なりとす春期は植栽の時に於て其準備は前年の秋に行はるべし歩道に於ける植穴は長五呎幅深さ各三呎を秋に掘り一立方米は肥たる黒粘土を交へたくなり

市街に於ける行道樹の種類は多けれど一方見本樹として直徑二吋半直幹にして樹冠の形よく地上七呎乃至九呎の高さのもの普通通す然れども此の如き樹木を求め難きときは直徑は細小なりとも形状の整ひたるものは街道樹の成功する根元にして一街に向樹種を植え同距離に植栽するが如きは必要なることとす普通行道樹は間隔各十三呎を可とし植栽は六十呎にすことあり之れ此の如く正しき位置の現實の中には都市も亦此の如く正しく作業すべきことを示すの利点あればあり反之個人をして植栽せしめば距離不遠近錯雜すべく或所は密植し或區は異樹種を交ふべし勿論樹種の選擇は地方

の状態によるものなれど東部地方の行道樹は種類を多く見うく槭樹は葉の美を以て顯はれ諸種の害に對し健全なり槭樹は初め生長緩かなれど遠見すれば立派にて且つ長壽を保つ又「レッドオーク」「ピンオーク」「スカレットオーク」は行道樹として最も良き三種とす「レッドオーク」は生長速かにして軟き土壤に適し濕氣を要し「ピンオーク」は最も麗しく其垂下せる枝葉細かに分枝し市外に適す「スカレットオーク」は永續性と葉簇の光滑なることとは今や試作中に屬す銀杏は瘠地にもよく生長し害虫及諸病に抵抗すること強ければ普く行道樹として廣く試みられ英國産物は大都市に植栽せらるる一種なり其他花の美葉の形等の卓越せる種類多けれど彼等は特殊の條件に一層周密なる注意を必要となすを以て前記數種のものより補付くること少く此美觀のものも市外の人により好愛せられ市中には少きもの多す即ち美はしき卓絶せるものは砂糖槭樹「レッドオーク」歐洲産「シナノキ」クアルミ「亞米利加産樹」チユウツツ「の木」これなり

砂糖槭樹は樹冠釣合よく秋季色どりたる陰を興へ多くは濕氣を好むニューヨーク市の附近に於て市の中央に植えし此樹は早く枯死するは蓋し瘠惡なる市街地に於ては其根が吸收する水分常に乏しき反し葉面より蒸發する量多きを以てなり「レッドオーク」は「シナノキ」は共に光澤ある愛らしき樹葉を有す「ニューヨーク」市附近には最も適し行道樹に多く植栽せらるる亞米利加産「シナノキ」も亦生長速なり「クアルミ」肥沃地を要し中夏に當り水滴の垂るるは菌害にかかりしもの多す而して行道樹は主として潤葉樹にして槭樹は庇陰樹として最も貴重すべ

きものにて最も大通りに植え或は市外の土地深く肥えて空氣の流通よき地に植栽せらる「チユウツツ」の木は葉の形他樹に比して面白く愛すべき人目を惹くものなれど最も肥沃の地味と濕氣の十分なることを待たば要となすを以て郊外の適地にのみ植栽せられ市中には單に幼き見本樹のみなり行道樹として異議ある樹種は「ポプラ」の種類「シムバメ」カ「シカモア」カ「タルバ」カとす「ポプラ」は甚だ葉小なり風害に罹り易く生長餘り速かなれば絶えず伐採を要す且つ後年には根を地上に表はし歩道を持上げ或は網狀の根は接近せる水道管を妨ぐ又初秋早く落葉し「シムバメ」「カ」は屢害虫に困められ絶えず枯色を呈し葉も大ならず「シカモア」「タルバ」はニューヨーク市附近にては害虫に犯され易し云々

拔萃

(續)

林業年中行事

十一月 内業

- 一、秋季植栽に關する諸帳簿を整理すべし
- 二、春季迄使用せざる器具器械類の手入修繕をなすべし
- 三、暖地に於ては上旬まで床換をなすを得べし
- 四、霜除を造り殊に霜柱強き地方に在るは落葉若は葉を以て厚く苗床の周圍を被ふべし
- 五、前月に引續き各種の種實採收をなすべし
- 六、春季使用すべき苗圃地を深く打ち起

造林

- 一、降雪運き林地に於ては上旬まで秋引續き間伐掃除伐及枝打をなすべし
- 二、引續き春季に於ける植栽豫定地の地拵をなすべし
- 三、防火線を掃除し野火を豫防すべし殊に原野に火入をなす慣習ある地方に於ては一層の注意を要す
- 四、松毛蟲樹幹を下降して落葉苔藓内に蟄伏するにより之を搜索驅除すべし
- 五、松の綠葉蜂土際に下降し結繭して蛹となり越冬するが故に力めて之を潰殺すべし

利用

- 一、薪炭材の伐採をなすべし
- 二、春季に於て施行すべき主伐木及間伐木の實査をなすべし
- 三、引續き椎茸の採收及乾燥に従事すべし
- 四、椎茸原木は其伐採後二十三日を経過し枝葉枯凋するを俟ち枝を切拂ひ之を長五尺位づきに切斷すべし此切斷木をボタ(楮木)と稱す而して鉋を用ひ末口より元口へ向け適宜の距離を以て其皮部に切目を入るべし之を刻みと云ふ然る後引續き寝せ込み(入れ木)伏せ木)をなし其儘二年間放置すべし若し椎茸を早く發生せしめんと欲せば刻みと同時に又は翌春に至り椎茸の盛に寄生せるボタの皮部を剥ぎて細末となし之を新ボタの刻みに撒布し以て菌種の發育を助くべし

五、推置原木根伐りの年より起算し三年目に至り十一月より翌年二月迄の間、に於てボタ寄せ(又伏せ本をろし)をなすべし

六、中旬より下旬に亘り漆の枝掻をなす

七、本月より翌年二月迄の間に於て櫨又は漆の實を採集し木蠟を製すべし

八、吉野地方に於ては本月初旬より翌年三月まで山間自生の葛根を採收し以て葛粉を製造す

九、竹の莖葉將に黄色を呈せんとする頃刈り取り置き其乾燥するを待ち炭灰を編むべし

十二月内業

一、年内の決算をなし諸帳簿を整理すべし

二、翌年に於て實行すべき諸事業の計劃及豫算を立つべし

三、翌年に於て使用するべき諸帳簿類を準備すべし

四、引續き器具器械類 手入修繕をなすべし

五、炭菰苗木の根包み菰袋繩等を調製すべし

六、風雪等の爲め霜除の破損せるものあらば之を修繕すべし

七、降雪前に於て春季使用するべき畑地を打ち起し置くこと前月に同じ

造林

一、積雪なき地方に於ては引續き春季植栽豫定地の地帯をなすべし

二、引續き間伐及補除伐をなすべし

三、枝打をなすべし漸次嚴寒に向ふを以て切口凍傷の虞あるに至るときは之を見合すべし

四、積雪なき地方に於ては翌年春季の發生する迄特に野火に注意すべし

五、雪害に注意すべし

六、害蟲の卵幼蟲蛹及成蟲を搜索驅除すべし

利用

一、引續き用材及薪炭材の伐採をなし及炭焼をなす

二、青森秋田地方に於ては橋道及堤の新設並に修繕をなすべし

三、引續き春季伐採すべき主伐木及間伐木の實査をなすべし

四、引續き椎茸原木の刻み及ホタ寄せをなすべし

五、三極植栽後三年目の冬に至り(生長早きは二年目過ぎも必ず四年目を越ゆべからず)之を刈採るべし但寒地に在りては切口凍傷し萌芽力衰ふることを以て二三月の頃に至り刈採るを良とす

六、本月より翌年二月迄獸類の毛皮を利用すべき好季節となす

七、紙を漉き又澱粉を製造す

文苑

森林看守の奮闘的生活

七宮生

ギルベルト氏嘗て巡査の運命は不幸なりと書きしことあり併しアレクサムの森林巡査は幸福にして而かも奮闘的なるものなり抑も森林看守の仕事は實際如何なるものなるかは彼の曠莫たる處に永住せし人にあるに過ぎぬ所のものはメザ國有林の番所の二所員が千九百十一年の春親しく経験せる話より採萃せるものにして繁忙時期に於ける準備事業を紹介せん爲めに亞米利加森林雜誌に掲載せるを拙譯せしなり

扱て一月二月及三月の三ヶ月間は此の番所で大抵家畜の給草播種準備及森林上の研究の如き内業に従事して居りまするけれども四月になると目前に控へて居る野業の處理に差當り必要な詰所や電話線の修理が必要になりまする則ち我々はパーククリクの詰所とビツククリクの詰所の屋根天井戸扉及窓をペンキにて塗り床板は油を塗りて完成しなければなりません此の詰所は共に三室ありまして海拔八千五百呎乃至八千七百五十呎の處にありまして故に此時期には四五呎も雪が積んで居ります

是等二詰所を結付くる電話線の延長十六哩もありましてコラドのゴルブランにある監督所までの電話線を修理しなければなりませんパーククリクの詰所からパーククリクの詰所に至る線は海拔八千五百呎乃至一萬呎に亘る山岳地を横ぎりますが或る場所

に於ては長距離間深い雪の下に埋り非常に困難いたします

私共は四月上旬に詰所まで背に糧食を荷ひながら出發いたしますが時として極めて粗雑なる櫓に載せ曳き行くこともあり詰所は馬馬が通行し得る下部雪線界から四五哩も離れて居ります私共は此際人間は雪靴にて旅行すると漸く五十ポンドを荷ふて十哩を行くに全日を要することを發見いたしました

一詰所毎に寝具糧食がロンのペンキ罐と一ガロンの油罐電話線瓦斯管絶縁器及諸道具で總數五百ポンドの荷物が入用であります私共は時に糧食を使用して詰所まで五日間に全荷物を運びました櫓は大急ぎで造りましたから非常に重く私共では助けがなかつたなら一時に數ヤード以上曳くことが出来ませんで監督官ロエル氏が此櫓を見て曳かんとした時に餘り重くて曳けないものだから之れにて荷物を詰所まで運ぶよりは下を板張にして看守詰所を用ひるに必要なる荷物を入れた儘雪の上を勝手な場所にて曳いて行く方が餘程よかろと注意してくれました位です雪は概して柔かでありまして少しも時としては非常なる粘着性を有しソリを動かすこと出来ないこともありまして併し雪靴は底から氷雪を掻きとり或は獸脂を塗る爲め留まる必要もありませんでした私共が詰所に到着するとペンキ塗る爲めに板葺の屋根から氷を掻き落して乾かさなければなりません天候はまた頗る寒冷でありますからペンキや油は先づ使用前暖めする必要がありますペンキを塗る前に先づ雪靴を穿ち必要な線瓦斯管絶縁器及諸道具を携帶して電話線の修理に出掛けました二人は電話線の修理には熟練家でありましたけれど

も雪靴にかけては新参者であります一人はまた雪靴にかけても電話柱や木を攀ち上ることにかけても頗る巧妙でありました私共は三日間に十六哩の電話線を修理いたしました電話線にして六呎乃至十呎雪に埋りたるもの數ヶ所ありました斯る場合には大抵樹木や電話柱に伸張具を結び付け引き出すことが出来ず居り居り或場所では引くことが出来ず程堅く氷結して居りますから引没せる儘放置し携帶して来た新線を代用し其の後融雪を待つて埋没線を取り出します此の雪靴にて電話を修理する位つらい仕事はありませぬ殊に傾斜急峻なる時に難儀します

其日の仕事が終わると長い坂路を降りて假舎に歸つて來ますが其際風が私共と競走するかの如く丁度同じ方向に吹き來る時は誠に愉快にして過般峻坂を攀ち登りし時の難儀は悉皆忘却する位であります災難は大抵雪靴の不熟なることから起ります電話線の修理終り一人の同僚と監督官との間に其の電話線によりての話にても充分知ることが出来る監督官が御機嫌は如何と云へるに對して返事が來ました曰く私は唐松を上らんとしたパーククリク詰所まで峻坂を這り落ちてました爲め一方の肩をはずし且つ兩脚には内腫を生じました他は健康であります又同人は他の場所諸道具及修繕品を荷ひ疾風の如く峻坂を下り來ましたが殆んど其中央部で突然高き雪堤に衝き當り自分計り雪の上に打ち上げられました彼が如き他の老練家でさへ積雪せる坂路を下り來まして裸出部を打つたことがありました

夏小屋であります其の中央室は前方全く開いて居ります此の小屋の上は雪が高く積んで居りまするけれども開いて居る前室と高き雪堤との間に殆んど二呎ばかりの空間がありました此の間隙から中に入り此の小屋の中にある電話を檢し終りにアンデルソンの小舎の西方二哩の處に一樹木が線の上に倒れて居るのを發見いたしました此處を修繕してからパーククリクの詰所まで歸りました

私共は此日殆んど二十哩雪靴にて滑過し三哩の破壊線を修繕いたしました午後八時に假舎に歸りました實に一日十四時間の仕事でありました實際私共は疲勞し食慾は亦た堪へ難くありました而して心地よき夜の休息終ると再び同じ業務にとりかゝります私共の此の電話線修理とペンキ塗るの仕事は其に奮闘的でありまして併し是れが完成するに來るべき野業期間の仕事に充分なる効果を得るに思ふと償ふて尙ほ餘りある感がいいたします

附言 雪靴とはスキーの譯語にしてスカンデナヴィアロシア中央亞細亞等の住民が是を雪上旅行に使用す普通トネリコにて作り長さは着用者の身長により異なるも普通七呎乃至十二呎幅二吋乃至三吋厚さ中央部一吋四分の一にして兩端に至るに従ひ漸次狭小し所謂イリ形をなす是れを足に付くるには先づ革紐にてつまさきから踵を廻はし夫れより此木製部の中心に固定したる鐵製釘絆に結付け定着す雪靴にて進行速度は普通平地にて一時間に殆んど五哩或は五哩半なり併し大なる速度は嶮しき小丘の下り坂の時得らる

雪靴にて跳ぶことは雪が充分なると到る處全洲を通じての嗜好遊戯なり此競走は奥獨

友林蘇岐

(六)

スキー登山、フルウェー及スキップランドに催される先づ跳ぶ時は峻しき小山の頂を...

駒ヶ岳登山之記

遠足部

威嚇せしうせし暑熱に去りて秋氣轉々清涼登山の好季節とはなりぬ。我れ健兒百有三十は二手に分れ...

登りつめたる峰より左方展開して遠く槍道急にして杖を力に攀ぢ登る先着隊は小屋...

やがて飯が出来揚りぬ汁は忙しき故出来ぬと言ふ。煮切らぬ飯も牛味噌も頗甘く何...

友林蘇岐

(七)

所に行く者頭を跨ぎて通る、御利益あるかは知らざれどさりとては餘り有難かざる...

痛の數々互に披露しあふり興あり、手水を引いたくも固よりさる水はなく口を漱がす...

んことを祈りぬ傍の小屋に入れば壁には何縣何郡何村の某何年月何日登山すなど處...

小品二題

ピラミット生

朝 風と来る冷かな風は黄色に乾き切つた栗の葉がさがさど這って行く。

馬の吐く白い太息が消れては又後から後からとつづく「奈良井イナア...時のオ...」

雑報

○學校參觀者 汽車便開通以來殊に紅葉の時節に入りてより各地方の觀光團隊又は各學校の修學旅行隊續々入映し序を以て當校を參觀するもの少からず今試に十月以降諸學校職員生徒等の來校せるものを擧ぐれば

冷たい冷たい小雨がしどしどかゝつてかば色に灰色にすがれた桐の葉が悲しううに揺れるいたましい惨ましい桐の葉の運命。

和歌

羽田龍尾生静養の爲佐渡國新穂村に歸郷するを送る三首 竹 軒

冬されば沖つ浪風あらぶとふ越のうなばらこゝろしてゆけ。ふるさとの新穂のよねに越の海のおざらひれものかつさはに食へ。

○會員消息 第七回卒業生磯村益雄氏は今回伊藤と改姓せられたり 第八回卒業生服部啓次郎氏は今回一年志願兵として高田野戦砲兵第十九聯隊に入

○計報 二年生植松君は病氣の爲去る九月中兩親の許に歸省療養せしが藥石其効を奏せず遂に本月十五日溘焉死去せられたり

名残なく晴れ渡りて秋の空は愈高き四山の紅葉は益紅に真に之れ運動會日和なり。午前九時金刀比羅山に轟く五發の砲砲に競技の幕は開かれぬ校庭は數月來各級の凝らせる意匠によりて遺憾なく裝飾せられたる即門前に立ちて之を眺むれば正門のアーチの前には二年級の趣向に於ける鶴龜左右に觀客を迎へ向つて右には一年級の手になれる月に兎あり左方警察署の屋根の上には全一年級の手になれる大なる柿に蜂の止まれるものありて何れも觀客を驚かし校舎の前には三年級の手になれる花輪及び二年級の考案になれる戸板一枚に一字宛の大文字を以て秋季大運動會の六字を金色に表はして飾り付けられ最も壯觀なりし而して職員室の前なる棚の上には三年級の考案に係る鹿に紅葉の飾り付あり時期に叶ひしものとて多く人目を引きたり、如斯を關に至るまで種々なる裝飾ありし爲め校舎も見違へる許りに華々しく其他賞品部會報社賣店隊隊部等は燃えんばかりの紅葉を以て飾られ美しさを覺むるばかりなり、競技の進行に連れ觀客は轟々と詰めかけ十時頃には既に立錐の餘地なき有様を呈せり。

當日餘興の呼物たる木之一代は奇想天外とも云ふべく満場割れんばかりの喝采を博せり、こは何れも本校生徒の製作に成り名の如く木材の生涯を表はせるものにして種子より初まり猿蟹合戦、立白谷風の駒下駄余良大佛の揚子西行の槍笠等より卒塔婆に及び荷くも木材に成れる器具概ね洩さず拍手喝采を得たり斯くて各級選手競争に至り各級より撰み撰める六名の勇士猛然としてスタートに現はるるやフレイの聲は天地に響き觀客の應援亦甚盛なり我ころ月桂冠を得んものと片唾を飲み出發の合圖を待ち待てる勇士の風姿勇まし勇ましともかく最後の號砲轟然と耳を貫くや六名の勇士は章太天の如く走り出でぬ、初めが程は何れも負けず劣らず見えしが八回九回に至れば流石に優劣を示し遂に三年級安藤君第一着を占め優勝旗は遂に三年級安藤君第一着を占め優勝旗は遂に三年級安藤君第一着を以て午後五時山林學校の万歳を三唱し茲に目度散會せり。

○會費未納諸君へ謹告 會費未納の諸君は至急御納付被下度特に願上候 壹圓宮下作次君、參拾六錢宛丸山金三郎君加藤正次君 〇會費領取報告 第六百ヤード第一着 吉池三九郎君(二年) 第二着 角田 久福君(三年) 第三着 小崎 次郎君(一年) 障礙物競争第一着 杉 本 直君(三年) 第二着 羽豆太郎平君(一) 第三着 細江 七兵衛君(二) 盤根錯節 第一着 細江 七兵衛君(二) 第二着 杉 本 直君(三年) 第三着 羽豆太郎平君(一)

附録

修學旅行日誌 第三學年編 本日誌は去る六月の本誌に掲載すべき筈の處誌面の都合上延引の止むを得ざるに至りしを以て茲に附録として掲載す乞ふ之を諒せ 五月廿三日 火曜 晴天 福嶋發濱松泊

春の花秋の紅葉は都人士の遊賞に適すれ共學生修學の途に裨する所少なく歌舞演劇の類時に大人子女の心を慰藉するに足れ共而も吾人等學生の健康を助くるに足らず蓋し吾人等が樂を増し修學の補助となる事の大にして身體の強健を致す可きは此修學旅行なる哉

然而我校の如き林學で各地異なる自然力の支配を受ける事柄に關しては修學は唯に机上の理のみ究むるは其實地を各地に涉りて見聞したる所謂實地と學理兩ながら全きに及ばざる事遠し、我三學年同一校に關する東の地に兩毛の地に其見聞を専らせんとす櫻既に散りて近く春の名残を猩血滴るが如き躑躅の地に垂れんばかり紫床しき藤花に見るの五月二十三日校長先生及び河野先生に引率せられ諸先生及び一年生諸君に送られて停車場に到る

六時廿分發の列車にて此樂しき旅の鹿島立をなす、三十町程も走れば「命をからむ鳥かすら」の棧の舊跡あり大鰐負へる和人の一群二群伍をなしつつ谷間材木夥しきを上り行くを見る雪消に山入し十月山を出づる伐木夫にやあらん約十丁程走れば上松なり繁華次驛なる須原に、優る雪の水嵩増して沿々物凄き寢覺の床は見馴るる景色ながらに流石に捨て難しここに數度の旅なれ共一鴻千里の汽車の旅面白く十數の本曾川鐵橋三十余の隧道も東の間に過ぎ濃尾の大平原を横切りて二十時廿分名古屋に着す、名古屋の城で持ちしは封建の昔今は浪華に次げる大都會東は東都の粹を抜き西大阪の秀を取る商業界の大中心なれば市街の景況さへいと引き立ちて見ゆ、後關西線にて奈良に向ふ二年生を送り程もなき一時四十分吾等は濱松に向ふ。

熱田の八剣を前面に伏し拜む熱田驛太府別屋を過りて安城驛に着す此地安城農林學校の所在地にして驛の附近に該校の苗圃あり車窓を隔てて之を望みしなれば詳細に知るに由なし午後三時と云ふに岡崎町に着す徳川家康公の出生地にして八町味増にて名ある地なり、豊太閤の古事ある矢矧川を渡りて豊橋驛に着す豊橋驛、吉田城跡、豊川稻荷山本勘助の碑等あり二川驛を出づれば近く蒲郡内海を望みて歸帆の点々たるを見驚津驛附近にイカノボリの夥しく揚げられたるを見る走ること暫くにして今切の鐵橋にかかる。

辨天鳥驛附近一帶の白砂、青松煙波遠く水天一様に分たるる大平の水後に余吾の湖の波濤やかなるは山國の生等には絶勝絶勝を呼ぶより餘念なく感歎の聲絶えぬ間に長き鐵橋を過ぎ本日目的地なる濱松に到着す時正に五時、本日は皇后陛下御還宮の日なれば名古屋市は勿論沿道の諸驛國旗幟門を設けて奉送したるを見受たり驛前なる油屋旅館に投宿す。

今朝駒ヶ岳の雪の化粧未だ消えやらぬ風情を眺めたる吾等の目には此夜濱松の宿にて將に寝に就かんとする時下女の蚊帳釣りをが殊に物珍らしく感ぜられぬ。

五月廿四日 水曜 晴 天

濱松發靜岡泊

午前六時三十分各員朝服を腰にして油谷旅館を出づ市街を並低くして數寄屋めきたる建屋言葉遣ひに至る迄宛然たる京都式の趣を存す當時幕府の國防に力を用ひ箱根の關を固めしがために東都の文物輸入の阻害せられしは争ふべからざる所なり迂廻して帝室林野管理局靜岡支廳濱松出張所の門を叩き在勤の某技手に案内せられて三方原御料林に向つて出發す三十分生松林の中を一里半も來りしと覺し頃三方原苗圃に達す某主事と前の技手に案内され苗圃地を視察す時正に七時三十分也此苗圃地の總面積三町五反七畝歩樹種主なるもの播種杉扁柏各一坪一合五勺種子供給地木曾奈良

吉野熊野尾州相州等に區分して其成績を試驗しつゝあり就中木曾奈良吉野等成績良好なり。

床替杉扁柏松各一坪につき百四十本床替時季二月中旬より松杉扁柏等順次に植付く山出普通三年目にして發育不良なるものに限り四年目に山出し苗となす苗圃地の周圍には一間許の堤ありて赤松を周圍に植付く黒松二回床替八萬六千本を二反十五歩一坪百四十本植付の整然たると樟苗の二年生のものに施せし日覆の簡便なるとは頗る参考に資すべし、即ち日覆は三尺位の杭を床地の四隅に打込み此上に縦に線金を延べ其上に藁を覆ひ竹にて之を抑へたる方法なり苗圃視察を終り暫時休憩後一里程過ぎて附近の御料林を見る樹種は總て黒松にて三十年生後のものなり總反別四千三百町歩周圍七十五里廿町歩を一區劃とし區劃線は幅二間の防火線兼用し一區劃より落葉百四十圓の副収入を得即ち落葉一束の價參錢餘にして之の取得地の手入費に八厘を要す第一火見櫓に至る平坦にして一望限りなき爲め高きに登らざれば森火災を見出し難き爲めに高き十數間のものを設け之に番小屋を附す第二火の見櫓は之より十數町あり此處にて茶の製應を受け中飯を喫す粗末なる宿の辨當も空腹には山海の珍味よりも美也喫し終りて濱松に引返し濱松樂器製造會社を見る木材利用の途の粹なるものにして諸機械の完備せる一より十まで機械づめの分業には一驚を喫したり製作し終れるオルガン、ピアノ、バイオリン等の調子を調べる音優に吾人の旅情の琴絃に觸れて言ひ知れぬ温味を覺えしめぬ、機械の喧ましき響の絶え間に開ゆるピアノの音床しき工場を出て午後一時三十分靜岡市に向つて出發す

す約十五分にして天龍川の鐵橋にかゝる此橋恰も複線上事申して三分強を要して過ぎ六井川の長き鐵橋を渡り行けば太平記の「嶋田藤枝にかゝり岡部の眞葛うら枯れて物悲しき」嶋田藤枝の驛もどろに響く車輪に懐古の念もかき消さるる如く汽車はひた走りに燒津に着す此地申すも畏れれど景行帝の御皇子日本武尊が薙ぎ給ひて土賊の惡計を逃れ給ひしと云ふ古跡も程遠からぬ所もあり此地附近一帶合理的に營まれしと思はる、造林地を見る石部附近海岸一帶帆船の往き來しげく地網引けるも見ゆ四時を過ぐる五分靜岡市に着直に久能山へ道を急ぐ寶大寺村と云ふを過ぎ八幡村にかゝれば竹林いやが上に茂り合ひて其深みには七賢人も隠れ居らん實に此地竹の名産地にして吐月峯も此附近一帶の名産なりと聞くと松大屋の邊枯梗多く峰打つ波に漁郎の難魚集めつゝあるも漁邊の景色なりやがて久能山の麓に着き麓より社標迄十數町悉く石段にして登り行き廻り行く程に一本の老松のいかめしく枝を張れる一の門に着す社務所まで四折石階百四十七一町半社務所より唐門まで九十四折一町餘總計十六町餘登り盡して眼を放てば西方安倍川の河口大角の林鬱また無線電信の標柱ある虚空蔵の山嶺を煙霞の裡に認め髣髴として夢の如き伊豆の大島を双眸の間に收め背後に波濤の如き山脈を負ふ西行法師の此所にて「涙のみかさ暮さるゝ旅なれやさやかに見れど月は澄めども」と詠せしむくつき生等に一句のあるなし久能忠仁の物語を思ひ浮べつゝ梅林の下一面にこぼれたる實を踏みつゝ山本勘助が堀りしと云ふ深き十丈許の勘助井戸と云ふに口を漱ぎ小高き築山を登り翠蓋天を俺、假塞地に蟠れる物見の松を見る本殿

は日光廟の結構を小さくせしが如きものに於て黒塗也本山は家康の遺詔を受け二代將軍が諸藩の手を借らずして建立したるものなりと聞け夕陽正に沈まんとして海波金色に輝けば暮も近しとて寶物を見るを得ず靜岡へ向け急ぎ歸り停車場に程遠からぬ旅舎大吉祥館に投せしは午後八時半なり。

靜岡市は靜岡縣廳の所在地、師範學校、帝室林野管理局靜岡支廳、縣立女學校、英和女學校、步兵第三十四聯隊等の所在地にして吳服町、七軒町など賑々しき市街なり夜國幣小社淺間神社に詣つ莊嚴なる構にして賤機山の麓にあり境内古松老杉多しこゝより望めば全面に雪の粧せる富岳を望み後に阿部川の帯長く結べるを見るを得べしと云ふも夜なれば見えす。

五月廿五日 木曜 曇天

靜岡發須賀泊

午前五時十五分靜岡市出發新橋行列車にて横須賀に向ふ忽ち海面の渺茫たるを見る田子の浦は夢の如くに遙かに遠州の御前ヶ崎は眠れるが如く微かなり豆州蛙ヶ小島雲をへだてて見ゆ江尻を過ぎ行けば天女の住むと言ふなる三保の松原見ゆ松は濱風に姿態を亂し丘は靡き平砂は原に洗はれ塵を去り日曜照る所水晶よりも美し碧白波岸を打ちて聲の響を送り立つ浪に飛び交ふ磯の千鳥も飛ぶを止めて此佳景に見惚るが如く誠に天人も下界戀しくなり相なる眺望況んや富士其白雪を頂ける秀影を落して腰より下の芝高は裾をばかし芭蕉の所謂「上山は雲より出す雪の不盡」を展開したるを清見寺は東窓より眺めたり海水浴に名ある興津には梨桃等を多く植栽する農業園藝試驗場ありと聞く、蒲原驛附近に由井ヶ濱あり正雪の生地にして塩汲海女あり網干

す漁夫あり伊豆の連山は遠く實際に見ゆ薩摩峠を眼前に見て岩淵を過ぎ富士川の鐵橋を渡りて浮島ヶ原を眺めつつ富士停車場に到る此地に富士製紙會社あり車窓より見るも其の規模の宏大なるを知り得べし。

走り走る我汽車は鈴川沼津を経て三嶋に到る此地千五百坪ばかりの地にして寂びたる町並を瞥見す佐野を經れば御殿場に著す東海道最高の停車場海抜千五百〇七尺富士登山口にして頂上に至る迄五里二十町なりと佐野驛より當驛附近に至る間杉櫓の林相稍々見るべき團生混交林を見る當地附近にての美林なりとか此地承久の難に殉せられし中納言宗行卿の墳墓ありと聞けども空しく林中を眺めて心に史蹟を辿るのみ小山驛より箱根山へ差しかかる開け行く御世の賜は古人の行儀める紀行文讀みつつある間に打ち越えて早くも國府津其他の幾驛を過ぎ午前拾壹時藤澤驛に下車すこゝは時宗總本山遊行寺の所在地にして小栗判官照手姫の古蹟も存す小憩後電車の便をかりて江の嶋に向ふ途上景色よろしきに思はず早く片瀬に下車す氣味悪き砂路を踏み曲りたる長き板橋を渡り終るや否や橋錢頂戴と云ふに驚かされぬ一の鳥居をくぐれば名物貝細工如何など呼ぶ聲喧し。

辨天への十數町を苦もなく上り拜殿へ頼づく坂を下りて窟に行くに山によりて數多の茶屋あり望遠鏡を備へ、螺の密焼を供す其の茶店に貸草履あり赤き緒の草履さげて草履召しませと執拗に附纏ふを振り拂ひ巖々たる岩道踏み鳴らして行く程にさやかなる棧橋を設けある窟前に出づ此邊漁父漁童群をなし五錢賜はらば鮑取り參らせんと言ふ試に五錢白銅を海中に投げ入るれば未だうが水底に落ちざるに之を拾ひ來る兒ヶ淵と

友林蘇岐

云ふは昔少年の身を沈めし處也狂瀾怒濤は恰もサタンサタンの如き勢もて寄せ來り巖角を噛みては岩の上に貝の齒の痕を残し引き立ては寄せよせては退き不盡の精力もて休止するなき躊躇するなく怒號し咆哮し四散し起伏す當年の恨未だ消わざる乎。

時の移るも忘れて此勇壯なる景色を見つづする程に二時近くともなりたれば急ぎ片瀬に歸り再び電車によりて鎌倉に向ひ長谷觀音に到る深樹を以て覆はれたる山門高く阪東巡禮の札所として名高し其創立は詳かならずと雖も寺鐘の文久元年の銘あるを見れば其れ以上に建立になれるは論なし。

堂に登れば長谷市街葉山の長汀曲浦は悉く一眸の中に入り眺望得も云はれず更に坦道を右に曲り松影參差たる間に巨大なる濡佛の六百四年の風雨を經たる顔容無限の慈心を湛へたるを見て鎌倉第一の呼物たる鶴ヶ岡八幡宮に向ふ青松海風に鳴るあたり一桁の朱塗の橋を渡り行くこと數十步正面に神樂殿あり源義經の妾靜の賴朝の命により一曲の想夫戀を唱せし所其東に白旗の宮あり開府の祖源賴朝を祀る。

本社は正面右階の上にあり朱塗の樓門高く聳ゆ石階の左方一株の公孫樹より承久元年別當公曉が身を隠して右大臣源實朝を刺したる所なり。

拜殿及本殿を廻廊もて圍む本社は一に上の宮と云ひ嚴めしき神籬を廻らし賽客として思はず頭を垂れしむ社殿後賴朝の冥福を祈りし白旗止あり境内を東して町餘り鎌倉師範あち之を過ぎて田畦を行くこと數町源賴朝の墓小丘に屹立するを見る輪塔苔深く榛莽四境を圍むこを出づれば大江廣元の墓あり。

之より行くこと五町餘にして明治二年七月

の創立にかかる南朝の皇子大塔宮護良親王の祠あり親王が王事に盡粹せられ終に此地に諡せられ兇手に薨せられしは皆人の知る所社背の土牢は親王が足利直義の爲に幽せられし所にして二段の石窟廣さ四坪に足らず板間をなして漫に人の入るを許さず社殿及境内瀟洒にして親王の靈を祀るに適せり夫より南朝の忠臣藤原俊基の靈を祀れる葛原神社圓覺寺建長寺等を參拜す。

鎌倉町は附近一帯各區の村落を併合して之を總稱したるものにして西稻村ヶ崎に至り東小坪葉山を隔て遠く三浦半島の絶端に及び三面皆松樹林の小山を以て圍まれ四隣には極樂寺朝比奈小袋坂の諸切通し及び藤澤逗子に至る數路をもつて通するのみ即雪の下に長谷扇ヶ谷二階堂社の下等より成る鎌倉郷とて治承年間源賴朝親府を此地に開きてより北條足利に至るまで二百餘年繁華を極め天下兵馬の權は一に此地に掌握せられしに昨日繁華の地は徒らに松聲濤聲の相和する處麥隴菜畦の連る處漁夫農人の唱和するを聞くのみ盛なる時は人口數十萬に達し邸第瓦葺を連りたるを源氏亡び北條の末路兵燹にかかりて遂に舊觀を止めず徳川氏親府を江戸に開くに及びて全く古蹟と歴史とを有せる海岸の一寒村となり終りたるなり、午后五時二十五分鎌倉驛を發し白砂青松の間を南すれば渺々たる相摸灘はパノラマの如く眼前展け夕陽箱根連峰に落ちて波濤は金色に榮え遠山は濃紫色より暗碧色に移り行く海水浴貴紳の別墅に名ある返子東宮御用邸のある乗山を打ち過ぐれば漸く暮靄の中に包まるる横須賀に着す行人織るが如き中水兵の畫きたるが如き勇ましき妻の數多雜れるも嬉し三富ホテルに投宿す時六時を過ぐる三十分なり、横須賀は第一

海軍區の港にして鎮守府の所在地港口は北に面し其口徑僅かに四町餘口内に入りて廣濶に連山この周を繞り如何なる暴風怒濤と雖も安じて碇泊することを得べし四十余年前は百に満たざりし小漁村なりしも交通便利なるとに依て戸數頓に増加し二萬五千の一都會となれり人家の一半は海波に臨み一半は山腹に架す其間造船廠鎮守府あり前面に展開せる軍港の内部装甲の船艦數隻の水雷艇を連ねて絶えず蒼海を往來す輕快なる小蒸氣の汽笛の音は本邦海軍の盛大なるを偲ばしむ。

工場の主なるものは船渠、船台、鐵船製造所、鑄物場、船具其他、倉庫石炭庫水溜等あり官衙に海軍機關學校、海軍機關術練習所、海軍病院、海兵團要塞兵の屯營三浦軍役所等あり。



明治四十四年五月二十五日第三種郵便物認可